動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話 （鉄電） 千葉 2935・2939番
（公） 043（222）7207番

97.3.14 No.4563.

「闘いは今から！闘いは現場から！」

3/7 新小岩支部よびかけで 東京東部春闘交流集会開催

三月七日、曳舟文化センターにおいて、動労千葉新小岩支部呼びかけによる、「東京東部春闘交流集会」が開催されました。

まず、始めに「五〇万韓国労働者、闘いの軌跡ーわれら民主労総」と題するビデオが上映されました。このビデオは、今、世界中で労働者の闘いが拡がっていますが、「日本の労働者も連帯して頑張るぞー」と、勇気を与えてくれるものでした。

つづいて、主催者からこの間の経過報告がされました。

(1)、連合結成・地区労解散に抗して地域の労働者の闘う連帯をつくろうと、動労千葉新小岩支部の呼びかけで実行委員会をつくり、集会を積みあげてきたこと。

(2)、国鉄闘争にこだわり、沖縄の闘いに連帯することを一つの方向としてすすめてきたこと。

(3)、そして、労働者への攻撃が強まるなかで沖縄と国鉄を結んで闘い、行革・リストラなどの嵐に反撃していくこと。地域における新しい連帯・共闘をつくりだしていくという闘いの方向性が打ち出されました。

講演では、「沖縄の軍用地強制収用反対の闘いの報告」として、沖縄高教組の方から、沖縄戦から戦後五十年、現在の収用委の実質審理までの話がされ、「命どう宝（命こそ宝）として、子や孫に基地のない平和な社会を手わたすこと。沖縄の闘いは日本全体の今後の進路に大きな意味をもつこと。そして、闘いの展望は私たちのこれからの闘いにかかっている」と述べられ参加者一同、本土における安保・沖縄闘争の爆発へ闘う決意を新たにしました。

特別報告に、新小岩支部の君塚支部長がたち、今回の三月ダイ改阻止闘争を起点に、貨物六千人体制合理化にストライキで闘うこと。労働者の敵＝ＪＲ総連を解体して国鉄闘争の前進をかちとる決意を表明。国労の仲間からは、「ＪＲ総連・革マルはファシスト労働運動だ！と大きな声をあげ、ＪＲ総連を打倒するために動労千葉と共闘して闘う」決意があきらかにされました。

最後に、東部地区で闘う各職場からの闘争報告と、「日経連プロジェクト報告と対決する二年目。今こそ団結して、春闘の二文字にこだわって闘うこと。闘いは今から、闘いは現場からを合言葉に、自分達の産別で闘いをつくって、安保・沖縄、国鉄闘争に合流していこう！」とのまとめを確認し、集会は大成功のうちに終了しました。新小岩支部は、地域の、動労千葉の闘いの最先頭に起ちます。

第八回車両技術分科会 定期委員会開催！

三月八日・九日の両日、館山市・民宿「伝平」において、第八回車両技術分科会定期委員会が開催され、有機溶剤作業阻止の勝利をはじめとしたこの間の恒常的スト体制での勝利を確認するとともに、「構内全面外注化」の先取り攻撃としてかけられてきた「構内・仕業の融合化」攻撃粉砕、佐倉機関区廃止阻止に向け、三・一九ストを全力で闘いぬく方針を決定した。

委員会は、斎藤副会長のあいさつで始まり、議長に木更津支部・吉野委員を選出して議事が進められた。

渡辺会長は「幕張電車区構内・仕業の融合化を許さず、佐倉機関区廃止阻止の闘いを、各支部とともに闘いぬく」とあいさつを行い、続いて本部・田中書記長より、ＪＲ移行後の東日本の検修業務のあり方が確立されていない問題、年令構成が一番高い職種での今後の要員ー技術力継承の問題など、検修職場での今後を見通した課題などが語られた。

議事に入り、経過報告、会計報告、九六年度方針案、予算案が提起された後、質疑応答に入った。

質疑では、諸手当の充実が必要、蘇我に派出が必要になっている、佐倉廃止に伴いＤＬが配置されるがが置き場所がない、各区での見習い期間がバラバラであり統一が必要、在来の一八三系を「シュプール」に使うので雪が入り故障が多発する、床下の発熱体の構造ミスで地気してしまう、主任会議だけで全て決めてしまうので下からの意見が通らない、など活発な意見が出され、今後の検修職場での取り組みを強化することを確認した。

方針採択の後、九六年度新役員が発表され、定期委員会は成功裡に終了した。

●九六年度役員体制●

役職	氏名	年	支部
会長	渡辺敏博	52	タテ
副会長	田中龍美	45	マリ サク
同	山田護	39	マリ サク
事務長	星和信	39	マリ
常任	加瀬武正	51	タテ シワ
同	石井誠二	53	タテ
同	川村正巳	35	マリ
同	結城敏之	35	ツヌ
同	島田善彦	34	ケヨ
同	小柴将美	34	キサ
会計監査	半田幸夫	35	マリ